2023.2.27

あなたがたも互いに相手を受け入れなさい

柴田　敏

同性婚を巡る問題があります。

岸田首相は、2 月 1 日の衆議院予算委員会で、法律で同性婚を認めることについて、「全ての国民にとっても家族観や価値観、社会が変わってしまう課題」だと、あまり積極的ではない答弁をしました。その後、首相の秘書官が、性的少数者についてあからさまな差別発言をして、秘書官を辞めさせられました。

日本で 2014 年に公開された、『チョコレートドーナツ』という映画があります。

1970 年代のカリフォルニアで、男性同性愛者のカップルが、母親が逮捕されたダウン症の少年を、引き取って育てようと奮闘します。とても幸福な暖かい場面もありますが、最後はハッピーではない終わり方になります。

1970 年代では、アメリカでも、同性婚は認められていません。同性愛者に対する差別もありました。

同性婚は 21 世紀になってから、欧米の国々を中心に法的に認められるようになりました。

同性愛の人を理解するには、まず話をしてみるのがよいでしょう。

けれど今のような社会状況では、同性愛の人がカミングアウトするのはリスクが大きいのです。

2015 年に、一橋大学大学院の学生が、同性愛者だということを LINE グループでアウティングされたことにより、精神的に不調になりました。そして、校舎の 6 階から転落死してしまいました。

学生の遺族がアウティングをした友人と、大学を相手に裁判に訴えました。

友人との裁判は、和解しました。大学との裁判は、東京地裁が遺族の訴えを棄却し、遺族側は控訴しましたが、東京高裁が遺族の請求を棄却しました。ただ東京高裁の判決は、個人の性的指向をアウティングすることには違法性があると指摘しました。

このような出来事が起きてきた中で、「LGBT 理解増進法」の制定が求められています。

理解することさえ拒んで差別するのは、愚かしいことです。

同性愛者がいるということを、まず認めてほしいということです。恐れることはありません。

ローマの信徒への手紙 15 章 7 節に、「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい」とあります。

「あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。」と言われています。

それは、「隣人を愛しなさい」ということでもあります。

同性婚を受け入れることで社会が変わるとしたら、より寛容な社会に変わるということです。

よりよい社会とは、互いに認めあい、尊重しあい、助けあい、赦しあい、愛しあう社会です。

そのような社会でなら、誰もが幸せになれるでしょう。

私たちは、誰もが幸せになれる社会を目指していきたいと思います。